

成功へのキセキ

南の国の「ナデシコ」税理士

第③回 勉強嫌いな私が、全国一位になれた理由

「何でもいいから、これは一番というものはありませんか？」

エッセイを書いたり、セミナーをしたり、本の出版をする場合、必ず求められるのが、プロフィールです。いわゆる経歴とか、実績とかいうヤツですね…。しかし前回も書きましたが、私には特筆すべき、輝かしいキャリアが何もありません。

大学院も出ていない
留学経験もない
MBAも持っていない
東大も出ていない
上場企業にも、
外資系企業にも勤めたことがない

あるのは主婦経験だけです。7人家族の専業主婦。あとは、税理士。でもねー、「ただの」税理士だと、珍しくもなにもないので、出版社やセミナー会社の担当者から、明らかにガッカリされちゃうわけです。「何でもいいから、一番のものはありませんかねー」と。

で、一生懸命考えて見つけました。税理士の本試験の直前に、TAC主宰の全日本答案練習会(現：全国公開模試)がありますよね。あれで、全国一位になったことがあるんですよ。しかも、5科目中2科目も！財務諸表論と法人税法です。

すごーいとか、思わないでくださいね。科目を見るとわかりますが、私は暗記が大の苦手。決して勉強が得意なわけではありません。もっというとえば本当は、勉強なんて大嫌い。今だから告白しますが、小学校時代から、暗記の宿題ができなかった日は、仮病を使ってズル休みするような子供だったのです。TACでも、理論問題が出ると分かっている日のミニテスト(←今でもありますか?)に、しょっ中遅刻していたのは、当時の先生なら覚えているかもしれません。

私が得意なのは、いかに本番のテストでよい点を取るということ。とくに税理士試験のように、合格基準さえ満たせばよい試験、満点を目指す必要のない試験は、もっとも得意とするところです。なぜ勉強は嫌いなのに、テストになると、よい成績が取れるのか？今日は、特別にその秘密を教えちゃいますね。

小さな頃から読書好きだった私は、図書館から借りた本を、授業中も先生に隠れて読むような女の子でした。読む本がないときは、国語辞典を読んでいたぐらいです。そんな小学生だっ

たので、唯一、人より自信があった科目は、「国語」。国語で大切なのは、「出題者の意図を正確にくみ取る」という技術です。加えて、二人兄妹の妹だった私は、とにかく大人の顔色を伺うのが得意な子供でもありました。

というわけで、私が大学受験で駆使したテクニックも、出題者の意図を読むこと。全日本答案練習会(現：全国公開模試)や税理士試験の本番も例外ではありません。具体的にどうするかというと、試験に解答しながら、同時に出題者の気持ちになって採点するのです。

試験問題が配られると、まず試験問題を最後まで、「読み」ます。読書好きな女の子だったおかげで、とにかく速読と読解力には自信がありました。

次に解答用紙に、採点者の気持ちになって、ここは2点とか、5点とか、合計で100点満点になるように、採点基準の予測を書き込んでいきます。そこまで終わってから、はじめて問題を解きはじめるのです。ここまでの所要時間は5分。

この段階で、問題の難易度や内容、解答用紙のボリュームが頭に入っているの、どの問題から解くか、どの問題に何分かけるかといったタイムスケジュールも決まります。時間配分が決まったら、それも解答用紙に書き込みます。

そしてここが肝心なのですが、このタイムスケジュールは、どんなことがあっても、絶対に守ること。時間どおりに終わらなくても、迷わず次の問題にうつります。

当たり前ですが、苦手な問題は後回しです。税理士試験のように、合格ラインさえ満たせばよい試験の場合、最悪、解けない問題は白紙でもかまいません。難しい問題は、未練なく切り捨てる。そのため学生時代の私は、難しい問題のときほど、よい成績をとる傾向がありました。白紙だろうが、誤解答だろうが、0点は0点だからです。逆に、平均点が80点ぐらいいくような難しいテストの場合は、真ん中の成績がやっ、という有様です。

余談ですが、私が受けた年の簿記論は、非常に難しかったみたいです。その年は、大問が3問ありましたが、3問目は無理と判断して、白紙で提出しました。その代わり、1問目と2問目は絶対に正解する、という作戦で、何とか本試験をクリアできたのです。

それでも初めて受けた税理士試験。3問目を白紙で提出したショックは大きく、「もうダメだ。税理士試験なんて大それたものに受かるのは、やっぱり無理」と思い、帰りの東武デパート(←池袋です)で、お菓子をやけ買い。家に帰るやいなや、夫に

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現：全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」を全国1位の成績で、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性だけのスタッフ22名、一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に「小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本」「小さな起業のファイナンス」(いずれもソーテック社)、「51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)」「トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)」「世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)」「一生食っていくための土業の営業術(中経出版)」など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

泣きながら「もう、あきらめる」と宣言したぐらいです。冷静な彼が、「そう言わず12月まで待ってみれば？」と言ってくれたおかげで、今の私があるのですが(笑)。

さて話を本試験に戻します。どの試験でも、この時間配分は同じなのですが、問題の解答にあてる時間は、全体の3分の2まで。残りの3分の1は、最初に予測した採点基準に従って、自己採点の時間です。そのとき、解答用紙の横か、それが無理なら問題用紙に小さく、○×△を書き込んでいきます。○だけで、合格ラインをクリアしていれば、万々歳。

しかし、たいていの試験は、そんなに甘くはありません。そこで、残りの3分の1の時間を使って、△の問題に取りかかります。と、言いたいところですが、まだまだステイ・ステイ。ここで焦ってはいけません。まず、○の問題を見直します。こんなところで、ケアレスミスは、絶対に許されないからです。落ち着いて、○の問題の取りこぼしがないと確信できたら、いよいよ△の問題に集中！です。

さー、ここが合否の別れ目。気合いの入れどころです。一つずつ、一つずつ、△を○に変えて行くのです。人は、問題の数が少なければ少ないほど、集中力を発揮できます。とくに、あとこの2問さえ解ければ、合格確実だー、という段階になると、火事場の馬鹿力ならぬ「火事場の閃き」が生まれてくるから不思議です。

私はこの方法で、大学受験も、税理士試験もクリアしてきました。自慢するわけではありませんが、東京外国語大学の英米語学科だけでなく、慶應大学と早稲田大学の英文科も現役合格。当時、慶應大学英文科の倍率は、たしか20倍だったと記憶しています。

ではどうすれば、出題者の意図をくみ取れるようになるのでしょうか。私の経験ですが、次の3つの習慣がおススメです。

①まず、本をたくさん、たくさん読むこと。
中学生の頃は、平均1日、2冊は読んでいました。朝借りた本

を、放課後には返しに行くので、図書館の司書の方から、疑われたこともあります。

②それから、三択や五択問題などの選択問題をたくさん、たくさん解くこと。

出題者の意図が汲めると、本当の知識がなくても、選択問題は高得点が見込めるからです。私は、損害保険代理店の初級試験を掛け値なしの勉強ゼロで(税理士として、元もと持っている知識だけで)受験し、100点満点を取ったことがあります。

③最後に、理論問題などは、学校から配られたテキストの丸暗記をしないこと。

暗記の嫌いな私は、とにかく覚える量を減らしたい一心で、文章のボリュームを半分ぐらいに減らして、独自の「暗記ノート」をつくっていました。そして答案練習会などでも、その暗記ノートどおりに解答し、点がもらえるのか、もらえないのかを試していくのです。丸がもらえたら、さらにドンドン、文章を短くして、要旨だけに縮小していきます。そうすれば覚える量も減るし、なんとと言っても自分なりの理解度チェックも出来ちゃうので、二重にお得というわけです。

私の勉強法は、本当に頭のよい優秀な人からみたら、邪道も邪道。大きな声で人にはオススメできるものではありません。でも、私のように勉強嫌いな人が、とにかく目の前のテストをクリアするには、よい方法だと思います。

この他、私が実践していたズボラ勉強法には、付箋徹底活用法や、マーカーぐるぐる塗りつぶし法などがあります。普段はできるのに、本番になると実力を発揮できないという方は、恥ずかしながら、拙著「7人家族の主婦が1日3時間しか使えなかった私が知識ゼロから難関資格に合格した方法」(中経出版)に詳しく書いていますので、参考にしてくださいませ！

好評発売中

知識ゼロでもひとりでもできる!

フリーランスのためのはじめての青色申告

宮崎 綾子 著 原 尚美 監修(日本実業出版社) 1,400円+税

シロウトが書いたシロウトの気持ちがわかる確定申告本。今年から白色申告の人も記帳しなければなりません。どうせ帳簿をつけるなら節税メリットの大きな青色申告がおススメ。というわけで税金のプロである税理士 原尚美監修のもと、シロウトでも出来る青色申告のノウハウをやさしく解説しています。